

# 2022 年 度 事 業 報 告 書

特定非営利活動法人 地球のステージ

## 1 事業の成果

- ① 映像と音楽を組み合わせた国際理解教育プログラム「地球のステージ」シリーズの開催
- ② 「地球のステージ」に関する情報提供、交流事業等の実施
- ⑥ 「地球のステージ」シリーズに関連するCD、絵はがきなどの有償提供

### ●地球のステージ実施事業

- ・ 国際理解教育プログラム「地球のステージ」の年間実績は、まだ新型コロナウイルス感染症の影響を受けており58回であった。前年より5回増ではあったが、依然として回復には至っていないのが実情である。
- ・ 全校生徒を体育館に入れられない、ホールの収容人数制限などの制約があり、生徒を2回3回に分け50～60分の公演を複数回行ったり、YouTube Liveでの配信に変えたりすることもあり、新型コロナウイルス感染症の影響は現在も続いている。地域や学校規模によって希望が異なるため、複数回公演の実施や時間短縮など臨機応変に対応した。
- ・ 中学校では会場での質疑応答、高校や大学では希望者を募って交流会を行うケースが多かった。
- ・ 地球のステージ（音楽を伴わない講演）の実施。新型コロナウイルス感染拡大や費用的な事情により実施。オンライン講演は3回、対面式の講演は2回であった。地球のステージの語りだけの新しいシリーズとして実施。新型コロナウイルス感染症により、学校はじめ主催する側の意識・体制も変わっていることより、より柔軟な公演内容・形式を求められるようになっている。

- ③ 医療、教育、職業訓練などを通しての国際支援事業
- ④ 自然災害時における救援活動に関する事業
- ⑤ 途上国支援、自然災害時における救援活動への募金活動

### ●東ティモール事業：エルメラ県における母子保健リプロダクティブヘルス向上事業

- ・ 4月より、村で実施している超音波検査のモニタリングを実施中。検査件数や診断された合併症の件数を把握し、手技や診断における質問については専門家にフォローアップを依頼している。
- ・ 5月、母子が継続的に医療を受診できるようサポートする継続医療カードについての研修を現地医療者に実施し、その後運用を開始した。
- ・ 6月から7月にかけて、現地専門家同行のもと産婦人科超音波検査の現場指導を実施した。
- ・ 7月、超音波研修第1期生を対象とした最終試験を実施。10名全員が合格し、東ティモール国立保健院より能力証明書が授与され、東ティモールにて初めての認定された産婦人科超音波技術者が誕生した。
- ・ 8月、日本から桑山専門家を派遣し、現地医療者に対し医療倫理・コミュニケーションセミナーを実施した。
- ・ 8月、現地医療者を対象に母親学級についての研修を実施。その後、村での母親学級を開始した。

- ・ 9月、日本から正木専門家を派遣し、腹部超音波研修を実施。その後、各医療施設にて現場指導を実施した。
- ・ 10月、新規現地駐在員として川口を派遣。
- ・ 10月、中島専門家の指導のもと、村で中間評価データの収集を行った。
- ・ 12月、昨年とは別の医師を対象に、第2回産婦人科超音波研修を実施した。
- ・ 1月、本部事業担当の中川が現地へ渡航し、活動の視察及びモニタリングを実施した。
- ・ 1月から、産婦人科超音波研修第2期生に対し現場指導を実施。現場指導の際には1期生が指導者として同行し、2期生の習熟度把握や手技の指導を行った。

#### ・ 助産師育成事業

助産師育成プロジェクトとしては、新型コロナウイルス感染症拡大により授業進捗が遅れが生じ、予定していたカリキュラムより約半年遅れで授業を実施。2023年3月末現在、最終学年として、病院実習を行っている。当初は2021年12月卒業予定であったが、大幅な変更で2023年12月卒業を予定している。

### ● パレスチナ支援事業：ガザ地区心理社会的ケアモデル構築事業

- ・ ガザ事業最終年度となるため、1年次に設立した心理社会的センターの継続的な自立運営を意識した活動を行なった。
- ・ 人材を2名追加（個別支援が必要な裨益者に、病院やカウンセラーを紹介して適切なケアが行えるよう支援する専門のケアマネージャー1名、活動が国際基準に即しているかを分析指導するスペシャリスト1名）した。
- ・ ガザの現状を鑑み、子どもと親両方を対象とし、家族単位でプログラムの提供した。
- ・ 医療分野と教育分野両方から研修生を募り、幅広い方面でのケアを行った。
- ・ 国連や他の国際機関、地元機関とのネットワークの強化、紹介制度を導入した。
- ・ 映画「Magic mirror」を制作。今年度の活動の目玉であり、原案から撮影編集まで全て現地スタッフと裨益者自身が行なった。ファシリテーター研修の一貫で、研修員主体による映画第二作「Life」も制作。3月の最終イベントで上映した。
- ・ 2023年12月に専門家の桑山、石橋、事業担当の中村が渡航。PSOP研修員に対して桑山が心理社会的ケアのセミナーを、石橋が音楽ワークショップのセミナーを行うと共に、映画撮影指導を行なった。
- ・ ガザの特性に合わせた心理社会的ケアマニュアルを制作。12月出張時に委託コンサルタントと打ち合わせを行なった。
- ・ 2023年3月、専門家の桑山、事業担当の後藤、中村が出張し、最終発表会と終了イベントへの出席と事業の最終評価、現地提携団体への活動引き継ぎを行なった。

### ● ミャンマー教育支援事業

- ・ ミャッセ・ミャー村の中学校3年生から高校2年の生徒の就学率向上をめざし、就学支援を実施した。主に通学にかかる費用支援、学習資材支援。
- ・ 週末教室の運営 週末を利用して学習塾を開催。文具代を支援。約24,600円 G11以下の生徒を対象に4月、5月のみ運営。6月以降は安全上の配慮から閉鎖。
- ・ 2022年12月時点で通学している生徒へ学資支援を行う。  
G8：2名、G9：0名、G10：1名、G11：3名 計：6名に対して支援を実施。  
G8：22,500 kyats/月、G10・G11：30,000 kyats/月  
2022年12月～2023年5月までの6ヶ月分を12月5日に送金済み

●ウガンダ事業

- ・ウガンダ国へのNGO登録完了。
- ・2023年3月21日より、ウガンダ北部南スーダン難民およびホストコミュニティに対する心理社会的支援モデル構築事業を開始。駐在員をウガンダ国へ派遣。2023年4月以降、本格的に事業を開始予定。

●その他海外事業

- ・トルコ大地震支援募金の実施。支援活動は次年度に実施予定。

●東日本大震災復興支援事業：

- ・映像資料制作サポート  
閑上の記憶内や出張語り部の際に流す映像をリニューアルして再制作した。  
素材、技術を引き続き提供していく。
- ・追悼のつどい  
3月11日、閑上の記憶にて追悼のつどいのサポートを行った。  
撮影、音響、運営の補助として代表、スタッフが参加した。
- ・建物の支援を行った

## 2 事業内容

### (1) 特定非営利活動に係る事業

- ① 映像と音楽を組み合わせた国際理解教育プログラム「地球のステージ」シリーズの開催に関する事業
- ② 「地球のステージ」に関する情報提供、交流事業等の実施に関する事業
- ⑥ 「地球のステージ」シリーズに関するCD、絵葉書などの有償提供

● 地球のステージ公演事業

- ・事業内容 国際理解講座「地球のステージ」開催
- ・日時 通年
- ・場所 日本全国の学校体育館・ホールなど  
オンライン配信
- ・従事者人数 約3名（1公演）2名（マネージメントスタッフ）
- ・対象者 学校の生徒・教職員、一般参加者 約15,000人
- ・支出額 14,382,551 円

- ③ 医療・教育・職業訓練などを通しての国際支援事業
- ④ 自然災害時における救援活動に関する事業
- ⑤ 途上国支援、自然災害時における救援活動への募金活動

● 東ティモール支援事業

- ・事業内容 医療アクセスの悪い山岳地帯のエルメラ県で、多くの女性と子供が質の高い母子保健サービスが利用できるようになることを目指し、専用病棟の建設、医療者への超音波診断器を使った妊産婦検診指導、母子手帳の有効活用、母親学級の改善、母子や女性の健康に関する住民への啓発活動に取り組む。

- また、助産師育成事業にも取り組む。
- ・日時 2022年4月1日～2023年3月31日（N連事業/継続）  
2022年4月1日～2023年3月31日（助産師育成事業）
- ・場所 東ティモール民主共和国 エルメラ県全52村
- ・従事者人員 日本人スタッフ4名、東ティモールスタッフ6名、専門家6名
- ・対象者 直接裨益者：約4,000人（エルメラ県の医療従事者、県保健局役人、  
村長、対象妊産婦）  
間接裨益者：約13万人（エルメラ県全医療従事者及び住民）  
助産士学校学生 1名
- ・支出額 43,306,108円

### ● パレスチナ支援事業

- ・内容 ガザ地区における危険地帯居住児童に対する心理社会的ケア事業
- ・日時 2022年4月1日～2023年3月30日（N連事業/継続）
- ・場所 ガザ地区 ①ラファ市
- ・従事者人員 日本人スタッフ3名、現地スタッフ12名、
- ・対象者 直接裨益者：約500人（ガザ地区ケアクラス対象者、普及活動参加者）  
間接裨益者：約5,700人（直接裨益者の家族・知人、事業外研修の受講者）
- ・支出額 43,147,586円

### ● ミャンマー教育支援事業

- ・内容 ミャンマー中部ミャッセ・ミャー村の中学・高校に通う生徒の就学支援
- ・日時 2022年4月1日～2023年3月31日（継続）
- ・場所 ミャンマー国 シャン州 ミャッセ・ミャー村
- ・従事者人員 日本人スタッフ2名、現地スタッフ1名
- ・対象者 中学生 Grade8：2名 Grade9：0名  
高校生 Grade10：1名、Grade11：3名 計6名
- ・支出額 455,440円

### ● ウガンダ事業

- ・内容 ウガンダ国において、南スーダン難民の心のケアを目的とした事業立案の為の調査。NGO登録に関する各機関との調整業務。ウガンダ北部南スーダン難民およびホストコミュニティに対する心理社会的支援モデル構築事業
- ・日時 2022年4月1日～2023年3月20日（N連事業立ち上げ期）  
2023年3月21日～2023年3月31日（N連事業/継続）
- ・場所 ウガンダ北部ユンベ県南スーダン難民ホストコミュニティ地区およびビディビディ難民居住区
- ・従事者人員 日本人スタッフ4名、現地スタッフ1名（他スタッフ採用手続き中）、専門家1名

・ 支出額 1,824,939 円

● その他海外事業 (トルコ大地震支援)

・ 内容 2023年2月6日のM7.8の巨大地震発生を受け、募金を呼びかけ。  
その為のチラシを作成。(実際の活動は次年度以降)

・ 日時 2023年3月

・ 従事者人員 日本人スタッフ2名

・ 支出額 3,840円

● 東日本大震災復興支援事業

・ 内容 津波復興祈念資料館「閑上の記憶」の後方支援  
(追悼の集いにおける人的支援ならびに、閑上の記憶建物支援)

・ 日時 2022年4月1日～2023年3月31日

・ 場所 宮城県名取市閑上

・ 従事者人員 スタッフ2名

・ 裨益者数 追悼の集い参加者 500名

・ 支出額 737,848円